

岩手県公立学校

退職校長会だより



第205号

発行／岩手県公立学校退職校長会
代表 吉川 健次

事務局／〒020-0126 盛岡市安倍館町

印刷／富士屋印刷所 019(637)6391

第51回県研修・親睦会 「盛岡大会」に思うこと

県副会長 深澤 瞭



昨年9月に、結成60周年記念大会・第51回県研修・親睦会「盛岡大会」が開催され、成功裏に終える事ができました。児童・生徒発表では、仙北中学校合唱部と山岸小学校合唱クラブの素晴らしい歌声に、心が洗われるようでした。また、第46代南部長主南部利文氏による記念講演や見学研修（私は志波城古代公園見学）では、歴史の重みを感じ、また、時を超えたはるか遠き時代に思いを馳せることができました。親睦会は、さんざ踊りやスコップ三味線の演出もあり、大いに盛り上がりました。

大会成功の立役者は、やはり盛岡地区会員の皆さんです。各地区から参集した皆さんが、会場に到着してから帰られるまでの、全てに渡って気配り心配りを頂いたことに感謝申し上げます。

ところで、県大会は、新型コロナウィルスの拡大により宮古大会が中止になって以降、和賀大会、一関西大会、気仙大会、盛岡大会と開催されてまいりました。どの大会でも児童生徒の生き生きと活動する姿に接することができました。また、講演や見学研修では、学

ぶ喜び、知る喜びを得ることができました。とりわけ、親睦会で杯を傾けながら各地区の仲間と、旧交を温め合えたのは望外の喜びでありました。

各地区でも慶祝会やその他の会で、会員同士の親睦交流があり、お互いに元気の源をいただいております。しかし、県大会の親睦交流は一味違うのです。私達は現職の時、県内各地の学校、公所に勤務し、多くの先輩、同僚、後輩にお世話になりました。ちなみに、私は、東山町、宮古市、盛岡市、陸前高田市、沢内村、北上市、千厩町の勤務地で多くの仲間の支援と助言によりどうにか職務を全うすることができました。

県大会は、各地区でお世話になった仲間にお会いし、旧交を温め合える貴重な機会なのであります。

親睦会での話題は、児童生徒の発表や講演内容については当然でありますが、やはり、当時勤務した学校での様々な出来事について語られる事が多いです。授業研究会の後、さらに、杯をかわしながら授業について語り合ったこと。跳び込み前転や跳び箱の開脚跳びなどの指導方法について体育館で自分たちも体験しながら語り合ったこと。また、一緒に山に行きワラビやキノコ採りをしたこと、海で魚釣りをしたこと等々、話題はつきません。

ところが、意外と話題にならないのが、退職後の活動についてです。和賀会では、今年度初めに、会員の皆様に「退職後の活動歴等」の調査をお願いしました。集計結果をみると、多い順に、教育関係機関に関する仕事、地域社会への貢献活動、その他の様々な団体に関する仕事などとなっております。次回二戸大会の親睦会では、退職後のそれぞれの活動についても、意見交換できたら良いなあと思っております。

(和賀地区会 会長)

第2回理事会

期日 令和8年2月12日(木)
会場 盛岡市中央公民館

第2回理事会は、吉川会長をはじめ副会長及び理事（各地区会会長）15名、常任理事を加え、28名の出席のもと、今回は、盛岡市中央公民館で開催された。

理事会次第

1 開会の言葉 前川清志副会長

2 会長挨拶(要旨) 吉川健次会長
県内各地からご出席いただきありがとうございます。今回は会場を経費等の関係でサンセールから盛岡中央公民館に変更しました。更に、館澤事務局長の急な入院も重なり連絡の不徹底が生じ、理事の皆様には大変ご迷惑をおかけしました。事情をお察しいただきますようお願いいたします。願いたします。なお、しばらくは、大西事務局次長が代行いたします。

さて、令和7年度も各理事の皆様のおかげで大きな



挨拶する吉川会長

成果のもと無事に終えようとしています。特に60周年記念大会・第51回県研修・親睦会「盛岡大会」では、多くの会員参加のもと有意義な大会とすることができました。盛岡地区会の心のこもった運営に感謝申し上げます。

令和8年度は第52回県研修・親睦会「二戸大会」が行われます。会員が一同に会する年1回の大会です。一人でも多くの会員が参加することを願っております。また、ブロック研修は一関東地区会が主管となりCブロックで実施されます。ブロック内の絆がより一層深まることを期待しております。

令和8年度事業推進にあたっては、会員数の減少、諸物価高騰のおり、予算的に大変苦しいのですが会費の見直しを行います。また、ホームページを開設し、各地区会の活動状況等も掲載し、より一層交流を深めてまいります。

- 3 議長選出(輪番制)
岩船 敏行(宮古地区会会長)
- 4 会務報告及び各部の事業推進状況
(1)会務報告(総務部長)
(2)令和7年度各部の事業推進状況(総務・研修・厚生・経理の各部長)
- (3)60周年記念大会の総括
- 5 協議・情報交換
《協議1》令和7年度収支決算書並びに財政基金決算書の間報告
令和6年度の繰り越しが少なかつたため、財政基金からの繰り入れを行い、運営にあたった。繰り入れをなくしても予算が組めるようにのご意見もあった。
- 《協議2》令和8年度予算の効果的運用
会員数の減少、諸物価高騰は、予算不足を招き、本会の活動推進に大きな影響を与える。よって、次のような対応により令和8年度事業を推進したい。
- ①「退職校長会だより」の発行を年4回から3回とする。
- ②ホームページを開設し、本部及び各地区活動を適宜掲載する。
- ③諸会議の開催会場、時間の見直し
- ④旅費・諸手当の見直し
- 《協議3》令和8年度研修事業
(1)第52回県研修・親睦会「二戸大会」について
①期日 令和8年9月18日(金)
②会場
主会場：二戸市民文化会館
中ホール
懇親会：二戸パークホテル
③会費
11,000円(研修会・親睦会)、宿泊については、後日詳細をお知らせする。
- ④テーマ
「カシオペアの地から世界へ」先人から受け継ぐ現在、そして未来へ
- ⑤内容
記念講演は「世界を呑む!! 南部美人の挑戦」と題して、(株)南部美人5代目 蔵元 久慈浩介氏を予定。
児童生徒発表は、にのへ Jr. マーチングバンドと二戸市立福岡中学校特設合唱部・応援団による発表を予定。
- ⑥その他
申し込み、宿泊等の詳細は、後日お知らせする。
- (2)Cブロック研修について
一関東地区会を主管地区として実施予定。期日及び内容等については、講師の最終決定を待って、お知らせする。
- 《協議4》令和8年度事業予定日
・第1回理事会 4月15日(水)
・定期総会 5月12日(火)
・第1回事務局長会議 8月19日(水)
・県研修・親睦会二戸大会

9月18日(金)

・Cブロック研修会 未定

・「いわて教育の日」のつどい 未定

・現職・退職両校長会教育懇談会 未定(令和7年度は12月10日)

未定(令和7年度は12月10日)

(水)実施)

・第2回理事会

令和9年2月17日(水)

・第2回事務局長会議

令和9年3月3日(水)

《協議5》令和8年度上寿・米寿該

当者

令和8年度上寿の対象者は2名、

米寿の対象者は31名である。定期総

会において、賀詞および記念品を贈

呈する予定である。

《協議6》「いわて教育の日」の推

進状況

令和7年度「いわて教育の日」の

つどいは11月10日(月)トーサイク

ラシックホール(岩手県民会館)中

ホールにおいて、約370名の出席

のもと開催された。第2部は千葉大

学副学長 貞広齋子氏による講演、

第3部は県立盛岡視覚支援学校高

等部 阿部玲菜さんの「五感を生か

す」と題しての弁論、北上ミュージズ

コーラス隊の合唱、盛岡市立洪民中

学校による群読劇が発表された。大

変感動的なステージであった。退職

校長会からは32名の参加があった。

令和7年度は「いわて教育の日」

が設立され20年を迎えたことから、

20周年記念誌を発行した。

《協議7》各地区会から(情報交換

・会員数の減少は著しく、新会員の

いない地区があった。また、ここ数

年の間に、会員が40名減少したとこ

ろもあった。さらに、会員の高齢化

も進んでいる。

・令和9年度第53回県研修・親睦会

花巻大会の開催へ向け準備委員会を

立ち上げ、準備を進めている。

・会員相互の親睦研修を深めるよう

事業の実施や内容の工夫、取り組み

の工夫をおこなった。

・広い地域であるが、会報の配付な

ど手渡しを原則とし、顔の見える活

動に心がけている。

《協議8》その他

令和7年度校長役職定年予定者

は、小学校52名、中学校29名であ

る。すでに入会手続きについて文書

を発送しているが、各地区会におい

ても一人でも多くの新しい仲間が加

入するよう取り組んでいただきたい

。

6 閉会の言葉 福士久雄副会長

第2回事務局長会議

期日 令和8年3月5日(木)
会場 盛岡市中央公民館

第2回事務局長会議は、各地区会

事務局長15名と本部役員13名との計

28名の出席のもと、会場を盛岡市中

央公民館に移し開催された。

なお、11月1日付で紫波地区会の

事務局長が、橋本昌好氏となった。

会長挨拶(要旨) 吉川健次会長

会長挨拶の中で、令和7年度事業

推進への感謝と来る令和8年度事業

推進に当たっての思いが話された。詳

細については、第2回理事会会長挨

拶要旨の項を参照いただきたい。

協議・情報交換の概要

菅原孝司議長(胆江地区会事務局

長)により、会の進行がなされた。

会務報告ののち、第2回理事会での

協議事項をもとに進められた。また、

それに加えて、「令和8年度会員名

簿作成について」、「各地区会会員数

等の調査について」の確認がなされ

た。その後、各地区会の情報交換が

行われた。

1 第52回県研修・親睦会「二戸大

会」等について

二戸地区会より、大会の一次案内

が配付、説明された。来年度は1日

開催となり、研修会ののち懇親会を

行う。申し込みや当日の移動等につ

いての詳細は、来年度理事会等でお

示ししたい。会長からは、会員が一

堂に会する年1回の貴重な機会なの

で多くの参加を期待したいとのこと

であった。

Cブロック研修会は、一関東地区

を主管として、一関市千厩町にて開

催予定。期日等詳細は後日お知らせ

する。

2 会員名簿の作成について

令和8年度会員名簿を作成要領に

則り、5月12日(火)開催予定の令

和8年度定期総会までに、提出をお

願いしたい。このことについて、予

算削減の意味からも名簿を全会員に

配付しなくてもよいのではないかと

の意見もあったが検討した結果を教

えていただきたいとの指摘があつ

た。また、会員名簿の処分について

もどうするか困っている会員もいる

とお話もあった。これらのことに

ついては、令和8年度は通常通り配

付することとし、この間、次年度へ

向けて、作成や配付について意見を

集約していきたい。

処分の仕方については、名簿の裏

表紙裏に記載されているので、参考

にしていただきたい。

3 各地区からの情報交換

会員数の減少や諸物価高騰は、事

業推進に大きく影響し、予算の効

果的運用は各

地区会とも大

変苦労してい

るところであ

る。その中で

盛岡地区会か

ら、支出削減

の取組が紹介

され、大いに

参考になった。



熱心な協議が行われた事務局長会議

各地区会 活動のまとめ 各地区会事務局長から

地区会活動のまとめ

盛岡地区会



平 政光
新会員17名を迎え、会員448名で令和7年度がスタート。

今年度最大の事業は、結成60周年記念大会の開催であったが、その他の事業も通常通りの開催を目指してきた。

「5や」とも、それなりの活動は続く

岩手地区会



小野 仁
5月19日、定期総会を岩手県公会堂で県会長・岩手

地区校長会会長・日本教育会岩手会会長を来賓に迎え36名参加で開催した。会員201名を確認し、事業計画が提案通り承認された。

10月19日、盛岡シテイ・マラソンを横目に見ながら「秋の研修会・懇親会」を盛岡市中の橋周辺の文化施設にて実施した。昨年雨天で中止の詩歌碑巡りができた。テレビ岩手中庭に集合し中津川河岸上の橋まで11の詩歌碑を見つながら散策を楽しんだ。次に盛岡てがみ館に移動、館長の解説付きで富田小一郎の企画展を見学した。その後、東家別館で懇親会をし、近況を発表し古い旧交を温めた。(研修会16名、懇親会15名) 新会員加入率が低い岩手会だが、滝沢市教育長の声掛けにより年度途中に5名の新会員加入があった。感謝である。

地区会「活動のまとめ」

紫波地区会



橋本 昌好
5月、定期総会を開催し、今年度の組織と活動方針

(研修と親睦そして社会貢献活動の推進)を確認しました。総会後は「慶

祝・歓迎会」を行い、賑やかな会になりました。

8月、日本教育会(本年度主管)との合同研修会を開催し、「スポーツの可能性と子供達におけるスポーツ観戦の意義」と題し、岩手ビッグブルズ社長水野哲志氏による講演会を行い、別視点から捉えた示唆に富んだ講演となりました。研修会後は、現職の校長等との親睦会もあり、大いに盛り上がりました。

また、会員相互の「心の交流」を図る地区会報第27号は会員の皆様のご協力のもと玉稿を賜り、感謝の言葉しかありません。

なお、6年度Aブロック研修会の課題であった「財政基金」の立ち上げについては、昨年の総会で承認され年2万円の積立が始まりました。

また、懸案の研修旅行復活については増やせば別な事業を削らなければならぬという現状にあります。

地区会活動のまとめ

花巻地区会



今野 充雅
6月に新入会員を含め56名の参加を得て総会・歓迎

会を開催することができた。総会では会費の値上げを提案し審議いただいたが、その際に「これまでの事業・活動の一つ一つを見直し、会の目的にあるように会員の親睦交流に寄与する活動の充実を図ってほしい」との意見があり、会員が参加しやすい事業を重点に据え、その在り方について協議しながら活動を進めてき

地区会活動のまとめ

遠野地区会



多田 功一
地区会員数は50名を割り、新会員1名を加えて47名

となりました。5月の定期総会及び慶祝・新会員歓迎会では、瑞宝双光章受賞者と米寿・傘寿を迎えた方合わせて3名のお祝いを盛大に行いました。

今年度思い切った改善した事業は、会員文集「閑窓」の制作です。印刷費節約のため、個人のプリンタで印刷し、表紙と製本のみを印刷所で依頼しました。当初予算の半額以下で出来上がっています。30名の会員から原稿が集まり、趣味や旅行、健康と病氣、現職時代の思い出等多岐にわたる内容で読み応えのある文集になっています。

今年度も市教委との教育懇談会と

最後に、今年度逝去された会員11名の業績を称え、あらためて心よりご冥福をお祈り申し上げます。

現職校長との懇談会を11月に開催しました。小学校の再編・年齢の両極化した教員構成・不登校児童生徒への対応・部活動の地域移行・熊出没への対応など、現場の苦労を汲取ることができました。会員からは退職後の豊かな暮らしのノウハウを伝えることができました。

人生100年時代(パート2)

和賀地区会



澤藤 耕平

昨年度の当欄で、和賀会では2名の会員が上寿を迎えられたことを紹介しましたが、その続編となります。

今年度、当会では1名の会員が上寿を迎えられました。しかも、その方は5月に行われた総会と慶祝会に出席されたのです。

その方とは、小笠原尚介先生です。百歳の小笠原先生が出席されるといふことで、介助等の配慮を考慮しておりましたが杞憂でした。誰の助けもなく歩いて受付に現れた小笠原先生は、背筋がピンと伸び、とても若々しく見えました。そのかくしゃくたる姿に参加者の誰もが驚きの声を上げていました。

小笠原先生は、後に岩手日報の声の欄に、「足腰も容易でなく、耳や目も不自由になった私が迷惑をかけてはと心配して



祝詞を授与される小笠原先生

出席を迷ったが、当日は最後まで無事に参加でき出席してよかった」と投稿されていました。

2年間で3名の上寿者をお祝いした和賀会ですが、特に今年度は小笠原先生の姿から、人生100年時代はかくあるべき、と教えていただいた気がします。

地区会活動のまとめ

胆江地区会



菅原 孝司

新入会員7名を迎え、241名の会員で令和7年度

がスタートした。6月に定期総会を開催した。事業計画・予算等が承認され、吉田政会長をはじめとする新役員が選出された。その後の祝賀・歓迎会は、笑顔と歓談に溢れた和やかな会となった。

8月の「退職・現職校長交流会」では、現職校長から学校の現状について、会員からは現在も多方面で精力的に活動する様子が報告された。参加者は大きなパワーをいただいた。

10月「研修・親睦会」は、高野長英の生涯」と題し講演をいただき、改めて長英の功績を見つめ直す機会となった。懇親会では、アコーディオン出演のサプライズがあり、全員で楽しく歌い、大いに盛り上がった。会報「たんこう」は、31号、32号を発行した。内容のスリム化を検討していきたいと考えている。地区会の運営を支えていただいた

地区理事の皆さんに感謝すると共に、今後も事業内容の工夫や見直しを図りながら推進していきたい。

今年度の活動を振り返って

一関西地区会



佐藤 毅

令和7年度は3名の新入会員を迎え143名の

の会員でスタートした。四つの集行事を実施したが、コロナ禍前のような活気が戻りつつあると感じている。

5月の最終土曜日に開催した定期総会では、支出削減に向けたいくつかの改善点が話し合われ、伊藤文男議長のスムーズな進行のもと提案通りに決定され、実施に至っている。

夏休み期間中に開催した研修講演会(日本教育会と共催)は、会場がいっぱいになるほどの盛況ぶりであった。講師には健康運動士の吉野崇氏をお迎えし、私たち年代の大きな課題である「心身の活性化」について、疲労や老化のメカニズム、リンパ系や腸管免疫などについて科学的な見地から貴重なお話を頂戴した。その後、引き続き行われた交流会でも多くの現職校長が参加し、盛会であった。

11月には喜寿3名の当祝者のご出席をいただきベリーノホテル一関において慶祝会を開催した。以前と変わらぬ深淵としたお姿でユーモアたっぷりのご挨拶を頂き、参会者一同笑いの中、大きなパワーを与えていただいた。

次年度も課題は山積みであるが、「楽しく集う」を柱に据え取り組んでいきたい。

地区会活動のまとめ

一関東地区会



櫻井 博勝

本年度は2名の新入会員を迎えて101名でスタート

とした。

5月の総会では規約を改正し、本会の所在地を位置づけるとともに、議決基準を明確にした。申し合わせ事項では、数え年88歳の米寿と99歳の白寿、満100歳での上寿を祝すことを確認した。総会後は米寿の方々の祝賀会と新会員の歓迎会を盛大に行なった。

10月の竹頭研修会では、前一関市教育長小菅正晴氏に「戦後生まれの戦後80年：人物をつないで当時を想う」と題して、示唆に富むお話をいただいた。講演前には、自らバイオリンを奏で、ピアノとの素敵な演奏も披露していただいた。研修会後は「絆の会」を開き、現職校長との交流を深めた。

また、会報「竹頭だより」2回と「近況だより」を発行し、会員の様々な過ごし方を紹介することができた。本年度も役員らの努力と会員の協力により、所期の目的を果たせたことに感謝したい。



地区会活動のまとめ



気仙地区会
藤村 敏夫

昨年度、陸前高田市において行った県研修・親睦会「気仙大会」を盛会裏に終えることができた達成感を感じながら、今年度は新入会員1名を迎え会員数156名、新役員6名を含め18名の役員で活動をスタートした。

秋には、グランドゴルフの集いを多くの会員の参加により行うことができた。また、前年度までご苦労頂いた役員と今年度の新役員との慰労昼食会を気仙大会の研修場所の一つでもあった旧吉田家住宅の座敷を借り行うなど、様々な面で親睦を深めた。

コロナ前から行ってきた役員感謝状贈呈式並びに秋季研修会も今年度は行うことができた。研修には住田町の千葉英夫会員を講師、「国宝級！紺紙金字一切経の発見と気仙の歴史」を演題に、気仙地区内に眠っている宝の発見と地区を取り巻く歴史について興味をもって学習することができた。

この一年間、つながりを大切に、健康に気を配りながら、笑顔が溢れ、活力ある活動に取り組んだ役員・会員の方々に感謝している。

令和7年度の活動のまとめ



釜石地区会
千葉 伸一

令和7年度は、新入会員1名を迎えてスタートし、

5月に定期総会を開催しました。定期総会後には懇親会・歓迎会を実施し、会員同士の交流を深めました。

7月には、現職・退職校長会・日本教育会釜石地区会の合同研修会及び懇親会を開催しました。研修会の講師には小野共釜石市長をお迎えし、「釜石の現状と教育」と題した貴重な講演を拝聴しました。その後の懇親会では、講師を囲みながら楽しく充実した時間を過ごすことができました。

10月には「学校へ行こう月間」を実施しました。小中学校7校を訪問して、タブレットの活用、働き方改革の推進など学校が大きく変わっていることを直接知ることのできる貴重な機会となりました。

さらに、20名の会員から珠玉の原稿を寄せていただき、会誌「碧海」36号を発刊しました。巻末には、定期総会の資料及び会員の現況報告をまとめました。今年度は挿絵をカラー印刷とし、これまでとはひと味違った仕上がりとなりました。

活動のまとめ



山田地区会
倉澤 和広

令和7年度の実質会員は16名と

加入がない中、今年度から会長が福士久雄氏となり、地区役員の大規模な入れ替えがなされた。

5月半ばに定期総会、総会後昼食会を行い、地区会の今後のことや会員の近況報告等をする中で会員相互

の情報交換を行うことができた。6月は豊間根小学校授業参観及び懇談会を実施。町内小学校二校、中学校一校計3人の校長先生方から児童・生徒の実態と課題等を伺い、相互理解できたことは有意義だった。参加者は9名。その関心の高さがうかがえた。今後、今まで以上に負担をかける形形で、どんな支援や運営ができるのか模索したい。9月の結成60周年記念大会には、3名の方に快く参加いただいた。ほぼ予定した活動は実施できたが、会員の減少等課題の多い中、地区会の継承をどのように取り組むべきかを考えさせられた一年であった。

令和7年度の活動を振り返って
宮古地区会
山名 秀樹
宮古地区会には、新入会員ゼロ。総会員数95名で、今年度スタートしました。



5月28日に46名の参加者で総会を開催し、懇親交流会では今年白寿を迎えられた因幡重雄先生に今年度も乾杯のご発声をいただき、賑やかに懇親交流を深めることができました。

8月22日には、「体験楽習」と題して新規事業を16名の参加者で行いました。三陸鉄道に乗車し田老地区にオープンした「宮古市災害資料伝承館」を見学し宮古駅前で懇親会を行いました。未来へと歩み続ける元氣を新たにしました。

例年通りの事業では、現職・退職

校長会懇親交流会を11月10日に行い、12月1日には、宮古地区会伝統の活動である機関誌「蒼穹」を計画通りに今年も無事発刊できました。

退職後の日常生活の中で思いを寄せることや、各自の得意分野等で活動なさっている姿が彷彿される原稿が、会員の半数を超える54作品寄せられ、多彩な内容となりました。

活動のまとめ



九戸地区会
鎌田 和也

本年度は、残念ながら新会員を迎えることは出来

ず、72名の会員でスタートした(現在は70名)。徐々に会員数が減少しているのが、気になるが、小・中学校の統廃合も有り、やむを得ないところもある。

さて、5月の定期総会は、27名の参加で、事業・新役員・予算等を協議し、決定した。その後、会員の懇親会・慶祝会を実施し、和やかに交流することができた。また、理事会(年間4回)と役員懇親会・新年会も計画通り行った。広報「九戸会会報」も、会員の協力を得、予定通り、2回発行することができた。

そして、恒例事業としての地区現職校長会との11月の合同懇親会も、退職校長会員は26名の参加で実施し、お互いの懇親を深めることができた。

回数は多くはないが、当初の計画通りに活動できた一年間だった。新加入者を迎える(迎えたい)新

年度も、令和7年度同様の活動計画を構想している。

令和七年度「三戸地区会」活動のまとめ



令和7年度は新会員3名の入会をいただき、111名の会員でスタートしました。

本年は役員改選の年度で、新会長に清川泰氏、副会長戸来鉄男氏、新副会長に森川和彦氏、新事務局長に太田郁夫、事務局次長名古屋健氏、監事3名、理事10名、計18名の役員体制で取り組んでいます。

6月7日に定期総会を開催し、今年度の活動方針及び活動内容を確認しました。

6月21日には、第52回県研修・親睦会「二戸大会」実行委員会を開催し、令和8年度の県研修に向けて取り組みを始めました。

二戸地区恒例の「秋の集い」親睦会を10月25日に開催しました。「馬淵川逍遥」の著作者、松館寛氏を講師に迎え、「馬淵川逍遥を書いて」流域の文化を発掘し育てた教職員」と題して、講演いただきました。参加者27名は、新たな視点から馬淵川流域の文化と歴史について学びました。講演後の懇親会では、講師も交えて大いに親睦を深めることができました。



令和7年度活動の総括

本年度の活動については、基本方針に則り、会員相互の旧交を温め、本県並びにわが国教育の振興に努めてきた。本年度の活動を終えるにあたり、各部の活動を振り返り、次のように総括した。

総務部活動の総括



総務部長

熊谷 幸一

今年度は、本会の結成60周年を迎え、記念大会となる第51回県研修・親睦会「盛岡大会」を開催し大きな成果を挙げることができた。大会テーマ「明日に向かって豊かに生きる」のもと、県内各地から185名の会員が参集し、記念講演や児童生徒の発表、文化施設の見学等で研修を深めた。また60周年記念誌を発行し、会員及び関係各位に配付した。

今年度計画した諸事業は予定通り実施できた。会員のみならず、子どもたちに関わる教育関係機関・団体との交流も図られ、連携の大切さを改めて実感した。

また、連携団体の一つである「いわて教育の日」推進協議会も設立20周年を迎え記念誌を発刊することができた。改めて協議会設立の経緯を振り返り今後の活動に活かせる貴重な資料であり、我々も有効活用していきたい。

課題としては、少子化による学校

の統廃合や役職定年制の導入などにより、本会への新規加入者が減少傾向になっている事である、その対応がこれからの大きな課題となっている。それに伴い、会員数の減少による予算不足が懸念される。そのため、予算全体の見直しを図りながら、事業推進にかかる経費の効率的な運用を図っていききたい。

研修部活動の総括



研修部長

篠田 宜道

結成60周年記念第51回県研修・親睦会「盛岡大会」

を9月18日、19日に185名の参加を得てつなぎ温泉「ホテル紫苑」で大会テーマ「明日に向かって豊かに生きる」を掲げて開催。結成60周年記念式典に続いて仙北中学校合唱部と山岸小学校合唱クラブの元気な歌声が会場に広がった。記念講演は第46代南部家当主南部利文様が「藩校に学ぶ人づくりの精神」と題し、南部藩校の歴史と大切にしたい精神について話された。

二日目は閉会行事の後、見学研修が5か所の施設で行われた。また、50周年以降10年間の活動を記録した記念誌を編集した。

退職校長会だよりには「わたしの3・11」に出石手、花巻、遠野、盛岡、紫波の5地区の会員から14年前の震災時の体験を寄せて頂いた。

学校現場からは県小学校長会行政部長佐々木寿洋校長と県中学校長会副会長堀村克利校長のお二人に今日の学校の様子を寄稿して頂いた。第53回現職・退職校長会教育懇談会は12月10日サンセール盛岡にて参加64名(会員24名)で開催。話題提供は本会会員の篠田宜道氏と加藤良氏で退職後の第二の仕事や生きがい等について話された。

厚生部活動の総括



厚生部長

熊谷 雅英

今年度は9月18日、19日の両日「岩手県公立学校退職校長会結成60周年記念大会」がホテル紫苑で開催された。その夜には「記念祝賀会」を132名の参加のもと実施し、県内会員相互の交流・親睦を図ることができた。開催地区の盛岡退職校長会員の皆さんには「さかさ踊り」や「スコップ三味線」を披露していただき、記念大会を盛り上げていただいた。

また、12月には「県現職・退職校長会教育懇談会」を開催し、退職後の素敵な生き方や学校の現況を中心とした話題で、現職校長との交流を深める有意義な会となった。

福利・慶弔に関する事業については、例年通り、上寿・米寿を迎えられた会員、本会発展のために貢献された会員、春・秋の叙勲受賞会員に祝意を表しました。また、逝去された会員へは弔詞を奏呈し哀悼の意を表しました。

これまで課題であったデジタル化の推進については、具体的な取組方針を確認し、次年度は、実施に向けた検討をしてまいります。

経理部活動の総括

経理部長

佐々木則子



本年度は、新会員63名を迎え、2120名の会員数となる。会費納入免除、逝去等の会員は55名となり、実際の会費納入者は2065名であった。これは、昨年度に比べ49名の減となる。

物価高の影響を受け、令和6年度からの繰越金が例年と比べ半減したことにより、会の運営上財政基金から補填せざるをえない厳しい予算編成となった。この点を踏まえ、今年度も各地区会との連絡をメールで行い印刷物や郵券の節約をしたり、会議の会場を変更したりしながら事業にかかる経費節減に努め、昨年度より余裕のある決算となった。

昨年9月に開催された結成60周年記念大会は財政基金からの支出を受け、計画通り予算内で事業を実施することができた。

しかし、今後も諸物価高騰が見込まれるため、事業見直しとともに事業にかかる経費の見直しを図っていくかなければならない。

いろいろな場で話題となる会費納入免除会員については、60周年記念誌20ページの記載事項を参照にしなから各地区で確認していただき、県の事務局までお知らせ願いたい。

会員の動静

祝 高齢者叙勲

前号に引き続き、令和8年1月以降に高齢者叙勲の栄に浴された方は次のとおりです。

皆様とともに心からお祝いし、お慶び申し上げます。

○瑞寶双光章（2月1日付）

石上 博氏

茨城県神栖市土合本町

盛岡地区会

※事務局直属になっています。



編集後記

令和7年度は、本会が結成60年の節目を迎えた年でありました。昨年9月には、県研修・親睦会「盛岡大会」と併せて記念大会が大勢の会員の参加のもと開催され、意義深い大会となりました。さらに、60周年を記念し発行された記念誌において、本会のこの10年を振り返るとともに、各地区会それぞれの伝統と特色を生かし創意に満ちた活動が報告されております。

この60年の間、本会は「研修・親睦・社会貢献」を合い言葉に、その時々の課題に真摯に向き合い着実に成果を挙げてまいりました。同時に少子化による学校数の減少と会員の減少、高齢化は、本会の活動推進に大きな影響を及ぼし、今後の活動を見直す必要性に迫られています。

令和8年度は変革・改革の年になりそうです。発足の理念を忘れず、本会のさらなる充実発展のため、全会員のご理解ご協力を得ながら、次の一歩を踏みだしましょう。

終わりに、大変お忙しい中、副会長・深澤瞭様（和賀地区会会長）、各地区会事務局長様より玉稿を頂戴しました。心より感謝申し上げます。

岩手県公立学校退職校長会

郵便振替口座番号

0230017124952

第一面の本会報題字は故白木龍竹氏の直筆による